



# 市内4小中学校が「愛知県ユネスコスクール交流会」で活動を発表!

刈谷市産業振興センター 10月20日(土) 12時～15時

愛知県教育委員会主催の「愛知県ユネスコスクール交流会」が10月20日に開催されました。ポスターセッションでは、幸小学校と野依小学校が、小中学校の分科会では、高師小学校と前芝中学校が豊橋市のユネスコスクールの代表として発表しました。4校とも、総合的な学習の時間に学んだことをポスター等にまとめ、わかりやすく伝えることができました。また、他地区の学校の発表を聞いて、すすんで質問する姿も見られ、学校間の交流によって、さらに学びを深めることができました。

## ポスターセッション 12:00～

ポスターセッションで発表した幸小学校は、「わたしたちと防災」というテーマで、これまでの活動の様子を壁新聞にまとめて提案しました。野依小学校は、「みんなの幸せ追求し隊～『してあげる』から『一緒にやろう』へ」というテーマで、4年生3人が身ぶり手ぶりも交え、ユーモアあふれる語りで聴衆をひきつけていました。くすのき特別支援学校の子もたちや障がい者の方との交流をとおして、相手を思いやるかわりができるようになったことがよくわかる発表でした。

### 【幸小学校の感想】

昨年度と本年度の活動を新聞にまとめて発表しました。発表した児童は、仲間と一緒に新聞を作ったり、原稿を考えたりして、防災に対する意識が高まりました。今後、学級・学年にも広げていきたいと思います。



多くの参加者の前で堂々と発表する幸小の児童

### 【野依小学校の感想】

交流会に参加した子どもたちは、野依小学校のよさを改めて感じたり、発表した学校のよさに気づいたりすることができました。他校の発表を聞いて、「野依小学校にも池がほしいな」「来年は、立派なお米を作りたいな」と、意欲を高める様子もみられました。また、自分たちの発表を小学生から大人まで、さまざまな方々が真剣に聞き、質問してくれたことを喜んでいました。自分たちの活動内容や思いをしっかりと伝えることができたこと、会場の雰囲気や参観者の声から感じられ、大きな自信につながったと感じました。

### ■参加者の声■

小学校の子どもたちがはじめは緊張した面持ちで発表をしていましたが、その後の質問などに積極的に受け答えをしていてよかったです。自分たちがやってきた証だなと思いました。



参加者の質問に丁寧に答える野依小の児童

開会行事の後、4か所に分かれて分科会が行われました。小学校分科会は、一宮市立中島小学校がトンボ園・にこにこ畑を利用した環境学習の取り組みを、豊橋市立高師小学校は、伝統となっているもち米づくりについて発表しました。その後、岡崎女子大学の蜂須賀渉先生がファシリテーターとなってディスカッションが行われました。ディスカッションでは、高師小学校や野依小学校の子どもたちが中島小学校の活動について積極的に質問する様子も見られ、よい交流の機会となりました。中学校分科会では、名古屋市立宝神中学校が総合的な学習の時間や行事として行っている藤前干潟や清掃ボランティアなどの地域学習について発表しました。その後、豊橋市立前芝中学校が、5年間継続して行っている防災学習を核とした取り組みについて発表しました。発表を参観した愛知県教育委員会の主事は、「前芝中学校は、内容が充実し、生徒の学びも深く、とても参考になる実践だった」とたいへん感心しておられました。

#### 【（小学校分科会）高師小の感想】

「とても緊張したけど、高師小学校の田んぼの学習のことを多くの方々に知ってもらえてよかった」「発表してみて、田んぼの学習の大切さが改めてわかりました」。これは、ユネスコスクール交流会にて発表を終えた子どもたちの言葉です。今回の交流会は、体験を通してつかんだ思いを大勢の前で伝えられただけでなく、田んぼの学習で学んだことを深化でき、子どもたちにとって価値ある会となりました。また、他の学校の発表を聞いて「高師小学校の池も身近に感じられるようにしていきたい」「堂々と発表する姿を見て、私もがんばろうと思いました」など、今ある環境をよりよくしたり、自己を高めようとしてきました。



＜高師小学校の児童の発表の様子＞



＜前芝中学生の発表の様子＞

#### 【（中学校分科会）前芝中学校の感想】

昨年度は、暴風警報が発表されたため、発表をせずに帰ってくることになりましたが、本年度は、昨年度の内容にさらに改良を加えた発表をすることができました。

発表した内容は、「校区」「保育園」「小学校」「中学校」が合同で行った防災訓練の様子です。発表者となった中学3年生は、小学5年生のときから訓練に携わっていますが、本年度初めて、前芝学校の最上級生として、約2か月という長期間、準備から運営まで中心となって活動しました。

周りとは協力しながら準備をすすめたり、当日、校区のお年寄りや、保育園児、小学校低学年の児童など、さまざまな年齢の方と関わったりして、「校区の防災リーダー」としての責任の重さを知ることができました。

発表後、名古屋の宝神中や、名古屋国際中の生徒とディスカッションをし、自分たちと同じ年齢層の生徒がどんな生活をしているか、また、ESDに関する活動をどのように行っているかについて知ることができました。さらに、自分たちの活動を伝え、他の中学生へ刺激を与えることができましたと思います。

#### ■参加者の声■

- ESDの活動発表では、それぞれの学校の地域性や特色が表れており、どれも興味深く、たいへん参考になる内容ばかりでした。「知識」「教科」「人と人」のつながりが大切であり、活動そのものが学習に結びついていることを意識してカリキュラムを組んでいく必要性を改めて感じました。子どもたちの活動意欲が高められ、学びがその学年だけにとどまらず、学年・学校の枠を越えて、さらにつながっていくようにしていきたいと思います。
- 小学校分科会では、ファシリテーターの蜂須賀先生の柔らかい質問・受け答えに子どもたちは親しみを持ち、すすんで意見交流ができていて良かったです。